母斑細胞母斑様黒色腫

母斑細胞母斑様の組織構築を示した悪性黒色腫の1例

坂井 秀彰* 筒井 清広* 八田 尚人* 高田 実*

Summary

A 53-year-old man had noticed a pigmented lesion on his left palm from infancy. The pigmented lesion began to increase in size 10 years previously. The physical examination revealed a 17×12mm dark brown, irregularly shaped tumor. Histologically, there was a symmetrical growth of tumor cells from the epidermis into the lower dermis. The tumor cell showed slight atypia in the epidermis and papillary dermis, but cells in the lower dermis showed no cellular atypism. The patient was treated by the single excision and skin graft without elective lymphnode dissection. He died 7 years later due to the widespread metastases affecting left axillar lymphnode, colon and brain. We considered as a malignant melanoma showing histological similarity to nevocellular nevus.

はじめに

悪性黒色腫と後天性母斑細胞母斑の組織学的鑑別は通常容易であるが、稀にその鑑別が困難なことがある^{1)~3)}。今回我々は、初診時に悪性黒色腫の確定診断に至らずに、7年後に所属リンパ節転移および遠隔転移を生じ死亡した症例を経験したので報告する。

症 例

患 者：53歳，男性

初 診：昭和63年5月9日

主 訴：左手掌の色素斑

家族歴・既往歴：特記事項はない。

現病歴：幼少時より左手掌小指球にゴマ粒大の黒褐色斑が存在していたが、約10年前よりそれが徐々に拡大してきた。病巣に出血や糜爛を認めたことはない。

初診時現症：左手掌小指球に辺縁に凹凸のある12×17mmの不均一に着色した色素斑がみられた。病巣の中心部はごくわずかに隆起してくすんだ黒褐色斑を呈し、その部位では掌紋は消失し少量の鱗屑が付着していた(図1)。

病理組織学的所見：全切除標本の病理組織標本では、病巣はほぼ左右対称性で表皮真皮境界部および真皮乳頭層から網状層下層にかけて母斑細胞様細胞の増殖が認められた(図2)。腫瘍細胞は表皮内および乳頭層では大型類円形で軽度の異型性を示し、少数の各分裂像が認められたが、真皮網状層では細胞は小型化して異型性

* Hideaki SAKAI, Kiyohiro TSUTSUI, Naohito HATTA, Minoru TAKATA：金沢大学皮膚科学教室

図 1. 初診時臨床像

図 2. 原発巣全景の弱拡大像

は乏しく、病巣の下端でも比較的胞巣を形成する傾向が認められた (図 3, 4)。また病巣辺縁部の表皮内には大型の異型メラノサイトが個々に増殖する像が認められた。

入院時検査成績：胸部X線, 全身CT, 腹部超音波およびGa シンチグラフィーで遠隔転移を疑わせる所見は認められなかった。

治療と経過：病巣辺縁より 5 mm 離して全切除し病理組織学的に検討したが、悪性黒色腫の確定診断に至らず切除部位の植皮のみを行い、拡大切除やリンパ節郭清は追加しなかった。以後、患者は来院しなかったが、平成 7 年 2 月 (術後 7 年) に腹部不快感を主訴に T 病院内科を受診した。この時点で既に腹水が認められ、左

図 3. 表皮および真皮乳頭層の強拡大像

図 4. 真皮網状層下層の強拡大像

図 5. 大腸転移巣の病理組織像

腋窩および鎖骨上窩に小豆大から胡桃大のリンパ節を多数触知した。T 病院入院後の検査成績では腹水および髄液から class V の異型細胞が検出され、大腸と脳に多発性の転移がみられた。腋窩リンパ節および大腸の腫瘍は組織学的にも悪性黒色腫の転移であることが確認された (図 5)。なお、血清 5SCD は 221 nmol/l と異常高値を示していた。患者は平成 7 年 6 月に死亡した。

考 察

本症例では組織学的には乳頭層の母斑細胞様腫瘍細胞に軽度の異型性があり、病巣辺縁の表皮内に異型メラノサイトの増殖する像が認められたが、病巣が全体として左右対称性であること、細胞が集塊を形成して浸潤性に増殖する像がみられないこと、真皮網状層では小型で異型性の乏しい母斑細胞様細胞が主体であったことから、初診時、病理学的に若干の異型所見を伴う母斑細胞母斑と診断された。しかし、臨床的には小児期より存在した後天性色素斑で、最大径は17mmあり、その形状は凹凸不正形で着色は不均一であり黒色腫の特徴をすべて満たしていた⁴⁾。後日の経過から、本症例のように病理診断が黒色腫か否かが問題となった症例では病理学的所見のみにとらわれることなく、臨床的な事項も加味して総合的に診断すべきであったと反省している。

さて、自験例では黒色腫が生じた部位に幼少時より色素斑が存在しており、原発腫瘍が母斑細胞母斑を発生母地として生じたか否かが問題となる。山本ら⁵⁾は200例中29例(14.5%)に悪性黒色腫原発部位に生後まもなく、あるいは幼少時より黒子、母斑細胞母斑あるいは色素斑が存在したと報告している。また、組織学的に悪性黒色腫の原発巣内に母斑細胞母斑が共存する頻度は4~72%とされている⁶⁾⁷⁾。しかし、黒色腫の腫瘍細胞が時に真皮内母斑細胞と類似の形態をとることが知られており (small melanoma cell)、黒色腫の病巣内に認められる母斑細胞様細胞が母斑細胞か黒色腫細胞そのものの鑑別は必ずしも容易ではない。この点に関して Elder ら⁸⁾や Friedman ら⁹⁾は、small melanoma cell は通常メラニン色素を有し、網状線維で囲まれた胞巣を形成して個々の腫瘍細胞が分離することはなく、悪性黒色腫の腫瘍細胞巢との間に連続性が存在し、明らかな核異型が存在することが重要な鑑別点であると述べてい

る。自験例の原発巣の標本を詳細に見直すと真皮網状層下層の腫瘍細胞は異型性に乏しく、母斑の maturation に類似した小型化傾向がみられたが、表皮内および乳頭層の異型腫瘍細胞巢から明らかな境界なく連続性に増殖しており、個々の腫瘍細胞が下層においても胞巣を形成する傾向がみられ、これらは母斑細胞ではなく small melanoma cell である可能性が強いように思われた。以上の組織所見および臨床的事項を考え合わせると、自験例では幼少時から存在していた母斑細胞母斑が黒色腫の発生母地と考えられるが、組織学的に一見母斑細胞のようにみえた腫瘍細胞はすべて黒色腫細胞であったと考えるのが妥当のように思われた。

文 献

- 1) Reed, R.J., et al.: Common and uncommon melanocytic nevi and borderline melanomas. *Seminars in Oncology*, 2(2): 119-147, 1975.
- 2) Phillips, M.E., et al.: The spectrum of minimal deviation melanoma: a clinico-pathologic study of 21 cases. *Hum. Pathol.*, 17: 796-806, 1986.
- 3) 斎田俊明: Spitz nevus: 組織像の多様性と悪性黒色腫との鑑別. *病理と臨床*, 10: 788-795, 1992.
- 4) 斎田俊明: 皮膚悪性黒色腫の診断と治療. *Skin Cancer*, 8: 161-186, 1993.
- 5) 山本明史, 石原和之: 悪性黒色腫242例の統計学的検討. *岐阜大医紀*, 35: 207-237, 1987.
- 6) Crucioli, V., Stilwell, J.: The histogenesis of malignant melanoma in relation to pre-existing pigmented lesions. *J. Cutan. Pathol.*, 9: 396-404, 1982.
- 7) Stolz, W., et al.: Association of early malignant melanoma with nevocytic nevi. *Cancer*, 63: 550-555, 1989.
- 8) Elder, D.E., Ainsworth, A.M., Clark, W.H. Jr.: The surgical pathology of cutaneous malignant melanoma. *Human malignant melanoma*. Grune & Stratton, New York, 1979, pp. 94-95.
- 9) Friedman, R.J., et al.: Favorable prognosis for malignant melanomas associated with acquired melanocytic nevi. *Arch. Dermatol.*, 119: 455-462, 1983.